

# 基本的心理欲求支援が欲求充足を介して友人関係評価に及ぼす影響

## —制御焦点に着目して—

三和秀平<sup>1</sup> 外山美樹<sup>2</sup> 肖雨知<sup>3</sup> 長峯聖人<sup>4</sup> 湯立<sup>5</sup> 相川充<sup>6</sup>

<sup>1,2,3,4,5,6</sup> 教育テスト研究センター <sup>1</sup> 関西外国語大学外国語学部

<sup>2,6</sup> 筑波大学人間系 <sup>3,4,5</sup> 筑波大学人間総合科学研究科

大学生 223 名を対象に、友人関係における基本的心理欲求支援（自律性支援、関係性支援）、欲求充足（自律性充足、関係性充足）、関係評価の関連を制御焦点が調整するのかを検討した。分析の結果、欲求支援と欲求充足との関係において制御焦点の調整の効果がみられ、防止焦点において自律性および関係性のいずれの欲求においても欲求支援と欲求充足との関係が、促進焦点よりも強くみられた。また、媒介の効果を検討したところ、防止焦点においてのみ間接効果が有意となり、関係性支援が関係性充足を介して友人関係評価と関連することが示された。一方で、促進焦点においては自律性支援を受けたときに欲求が充足され、関係性を高く評価すると予想されたが、そのような関連はみられなかった。

**キーワード：**制御焦点、基本的心理欲求、欲求支援、欲求充足、友人関係

### 1. 問題と目的

自己決定理論（Deci & Ryan, 2000）では、人の基本的心理欲求として自律性への欲求、関係性への欲求、有能さへの欲求を想定している。そして、欲求を支える支援を受けることで、これらの欲求が充足され、ウェルビーイングの向上につながると想定されている。Hui, Molden, & Finkel（2013）は制御焦点（Higgins, 1997）に着目し、恋人関係における欲求支援と恋人関係に関わるウェルビーイングの関連について検討した。制御焦点理論（Higgins, 1997）では、人の目標志向性を獲得への接近に動機づけられ達成や進歩を目指す“促進焦点”と、損失の回避に動機づけられ失敗を回避することを目指す“防止焦点”に分類することが提唱されている。Hui et al.（2013）の研究では、促進焦点の個人は自律性支援を受けることで、防止焦点の個人は関係性支援を受けることで、それぞれ恋人関係に関わるウェルビーイングの向上につながることが示された。促進焦点の個人は、他者から提供される成長や達成に関わる機会に敏感である（Hui et al., 2013）。そのため、目標の追求を支えてくれる自律性支援を受けたときに高いウェルビーイングの評価につながったと考えられる。他方、防止焦点は相互依存的な考えと関連するとされている（e.g., Lee, Aaker, & Gardner, 2000）。そのため、防止焦点の個人は、関係性の維持に関わるような関係性支援を受けた時に高いウェルビーイングの評価につながったと考えられる。

これらの結果から、他者から支援を受けた際に、その支援の効果は、受け手の制御焦点の違いによって異なることが想定される。ただし、Hui et al.（2013）の研究では欲求支援（充足）とウェルビーイングの関連は検討されているものの、欲求支援が欲求充足を介してウェルビーイングと関連するという媒介の効果は明らかにされていない。また恋人関係について言及しているが、友人関係など他の関係にもこの知見を応用できるかは定かではない。そこで本研究では友人関係に着目し、以下の2つの仮説のもと媒介の過程における制御焦点の調整の効果を検討する。仮説 1：促進焦点の個人は、自律性支援を受けたとき

に自律性欲求が充足され, 友人関係をポジティブに評価する。仮説 2: 防止焦点の個人は, 関係性支援を受けたときに関係性欲求が充足され, 友人関係をポジティブに評価する。

## 2. 方法

### 2.1 調査協力者

調査協力者は関東地方および関西地方の大学生 223 名 (男性 114 名, 女性 107 名, 不明 2 名), 平均年齢は 19.69 歳 ( $SD=1.20$ ) であった。

### 2.2 使用尺度

①制御焦点: Promotion / Prevention Focus Scale 邦訳版 (尾崎・唐沢, 2011) を用いた (16 項目 7 件法)。得点化においては, 促進焦点の得点から防止焦点の得点を引き, 相対的制御焦点の得点を算出した。②欲求支援: Interpersonal Behaviors Questionnaire 日本語版 (肖・外山, 2018) の欲求支援行動の受領に関する項目を用いた (12 項目 7 件法)。なお, 友人関係に限定するため, 「私の友人は・・・」に続けて各項目を読んだうえで回答を求めた。分析には自律性支援 (e.g., 「私の友人は」私の好きなように選択させてくれる) および関係性支援 (e.g., 「私の友人は」私の行うことに関心を持ってくれる) を扱った。③欲求充足: Basic Psychological Need Satisfaction and Frustration Scale 日本語版 (Nishimura & Suzuki, 2016) の欲求充足に関する項目を用いた (12 項目 5 件法)。分析には, 自律性充足 (e.g., 私はやりたいことを自由に選べていると感じている) と関係性充足 (e.g., 私が気に掛けている人は, 私のことも気に掛けてくれていると感じている) を扱った。④関係評価: Hui et al. (2013) を参考に作成した項目 (e.g., 私は, 友人との関係に満足している) を使用した (3 項目 7 件法)。その他の項目についても尋ねたが, 本研究では上記の結果について報告する。なお, 本調査の内容は関西外国語大学研究倫理委員会の承認を得た (承認番号: 2018-8)。

## 3. 結果と考察

各変数の  $\alpha$  係数は .81~.93 であり, 良好な値を示した。そこで, 仮説に倣い欲求支援が欲求充足を介して関係評価に与える影響を制御焦点が調整する調整媒介のモデル (Figure 1) について分析を行った。分析は各変数を中心化した上で行った。自律性について分析する際には関係性支援を, 関係性について分析する際には自律性支援をそれぞれ統制変数として投入した。

分析の結果 (Table 1), 自律性支援と自律性充足の関

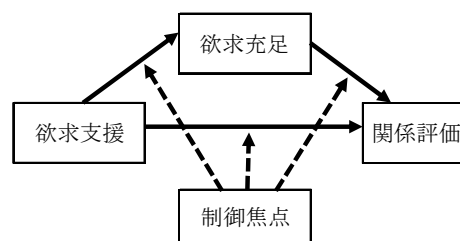


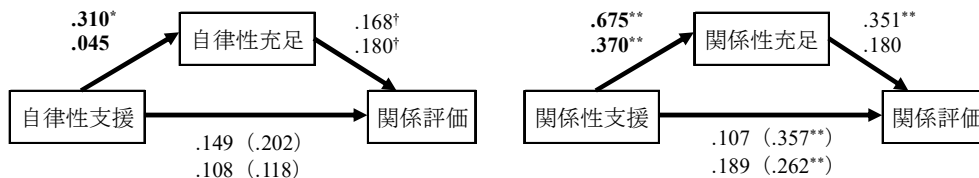
Figure 1 分析のモデル

Table 1 調整媒介分析の結果

	自律性支援→自律性充足→関係評価					関係性支援→関係性充足→関係評価				
	on 自律性充足					on 関係性充足				
	B	SE	p	95% IC		B	SE	p	95% IC	
欲求支援	.178	.107	.098	-.027	.388	.523	.094	.000	.339	.707
制御焦点	.039	.006	.000	.027	.050	.024	.005	.000	.014	.034
欲求支援×制御焦点	-.013	.005	.012	-.023	-.003	-.015	.004	.001	-.023	-.006
	on 関係評価					on 関係評価				
	B	SE	p	95% IC		B	SE	p	95% IC	
欲求支援	.128	.108	.239	-.086	.342	.148	.112	.188	-.073	.368
欲求充足	.174	.069	.012	.038	.310	.265	.078	.001	.112	.418
制御焦点	.004	.007	.604	-.010	.017	.006	.006	.337	-.006	.018
欲求支援×制御焦点	-.002	.006	.721	-.013	.009	.004	.006	.532	-.008	.016
欲求充足×制御焦点	.001	.006	.927	-.011	.012	-.008	.007	.254	-.022	.006
間接効果の検討	indirect	SE	95% IC			indirect	SE	95% IC		
防止焦点 (-1SD)	.052	.047	-.021	.167		.237	.097	.074	.455	
促進焦点 (+1SD)	.008	.028	-.039	.074		.067	.056	-.011	.214	

連および関係性支援と関係性充足の関連をいずれも制御焦点が調整していた。そこで, 独

立変数に±1SD の値をそれぞれ代入し、制御焦点が±1SD (−1SD を防止焦点, +1SD を促進焦点とする) の場合の単純傾斜を算出した (Figure 2)。その結果、自律性および関係性のいずれも防止焦点が強い場合に、欲求支援から欲求充足のパスが大きくなることが示された。また、ブートストラップ法 (ブートストラップ標本数 2000) による間接効果の検定の結果、防止焦点において間接効果が有意となった (95%CI: .074-.455)。



注1) \*\* $p < .01$ , \* $p < .05$ , † $p < .10$   
 注2) 上段が防止焦点(−1SD), 下段が促進焦点(+1SD)の結果を表す  
 注3) 統制変数は省略した  
 注4) 括弧内は媒介変数を投入する前の値を表す  
 注5) 太字は交互作用が有意だった箇所を示す

Figure 2 調整媒介分析の結果

以上より仮説 1 は支持されなかった。本研究では特定の恋人や親友ではなく、一般的な友人を想定した。そのため、友人から自律性支援を受けても促進焦点の個人が望むような成長や達成の機会ととらえるに至らなかったのかもしれない。ただし、友人から受ける支援は成長や達成の機会とはとらえられなくても、関係維持においては重要である。そのため仮説 2 は支持され、関係の維持を重視する防止焦点においては、他者からの支援を受けたと感じやすく、欲求充足につながったと考えられる。

防止焦点は、促進焦点よりも、関係性支援を受けたときに欲求充足と強い関連を示し、高い関係評価につながっていた。防止焦点は、促進焦点と比べて相互依存的な考えを持つため (Lee et al., 2000), 支援を受けた際に安心できるような関係の維持ができていると強く感じ、特に関係性支援を受けたときには友人関係を高く評価していたと考えられる。

今後は、友人の中でも親密度の違いを考慮したり、恋人と友人との支援の内容の違いなどにも着目した研究をしたりすることが求められる。

#### 4. 参考文献

Deci, E. L., & Ryan, R. M. (2002) *Handbook of self-determination research*. Rochester, New York: University of Rochester Press.

Higgins, E.T. (1997) Beyond pleasure and pain. *American Psychologist*, 52: 1280-1300.

Hui, C. M., Molden, D. C., & Finkel, E. J. (2013) Loving freedom: Concerns with promotion or prevention and the role of autonomy in relationship well-being. *Journal of Personality and Social Psychology*, 105: 61-85.

Lee, A. Y., Aaker, J. L., & Gardner, W. L. (2000) The pleasures and pains of distinct self-construals: The role of interdependence in regulatory focus. *Journal of Personality and Social Psychology*, 78: 1122-1134.

Nishimura, T., & Suzuki, M. (2016) Basic psychological need satisfaction and frustration in Japan: Controlling for the big five personality traits. *Japanese Psychological Research*, 58: 320-331.

尾崎由佳・唐沢かおり (2011) 自己に対する評価と接近回避試行の関係性—制御焦点理論に基づく検討— *心理学研究*, 82: 450-458.

肖雨知・外山美樹 (2018) 欲求支援・阻害行動は基本的心理欲求を充足・挫折させるか—父親・母親・親友に着目して— *日本心理学会第 82 回大会発表論文集*: 1080.

三和 秀平, 外山 美樹, 肖 雨知, 長峯 聖人, 湯 立, 相川 充